

伝統工芸の継承×障害のある方の雇用
The <NEXT> CRAFTSMAN KYOTO

職人不足の現状を
障害のある方が救う!?

伝統工芸と福祉の
相性は意外といい?

主催 京都市

京都の伝統工芸で
障害のある方が働く可能性を考える
ミニシンポジウム

障害のある方の就労支援
どうしているの?

京都の伝統工芸における障害のある方の職域開拓の
可能性や課題を、伝統工芸の事業所、就労支援機関、
大学の3つの立場から考えます

どんな人が
職人に向いている?

平成28年 11月 28日(月) 18:00~20:00

会場 京都市勧業館「みやこめッセ」大会議室 (京都市左京区岡崎成勝寺町9-1)
アクセス 市営地下鉄東西線「東山駅」より徒歩約8分
市バス32, 46系統「岡崎公園ロームシアター京都・みやこめッセ前」下車
URL: <http://www.miyakomesse.jp/>

対象 京都市内の伝統産業の事業所及び企業、障害福祉事業所、大学職員

パネリスト

伝統工芸のゲンバの声

「伝統工芸の担い手を、どう探し育てるべきか？」

▶ 有限会社中村ローソク 代表取締役 田川広一氏

- 伝統工芸での職人不足の現実について
- 職人の継ぎ手となるべき人材に、求めるもの
- 実際に障害のある方が手がけた和ローソクとはどんなもの？

障害者福祉のゲンバの声

「工芸品を手掛ける、就労支援事業所の支援とは？」

▶ 社会福祉法人 菊鉾会 テンダーハウス 主任 成実 憲一氏

- 工芸品ができるまでの工程のなかで、どの部分を担っているか？
- 工芸品を作るなかでの障害のある方への指示の仕方

教育機関のゲンバの声

「伝統工芸とキャリア教育の中での気づきとは？」

▶ 京都造形芸術大学 プロダクトデザイン学科 教授 北條 崇氏

- 伝統工芸とのキャリア教育の中にある可能性
- 商品開発や共同プロジェクトを経験した中での難しさ

登壇者の紹介

有限会社 中村ローソク

代表取締役 田川 広一氏

(有)中村ローソク3代目の義父が病に倒れたため、大手自動車メーカーから、全くの門外漢であった和蠟燭の匠の世界に入り、長い修行を経て4代目を継承。伝統的な手作り京蠟燭の暖簾を守り続ける一方、蠟燭の絵付けを障害のある方の新しい仕事として切り出そうと挑戦している。

京都造形芸術大学

プロダクト
デザイン学科

教授 北條 崇氏

2003年よりitem-s designを主宰。京都等の伝統産業のデザイン指導に携わる。2011年より京都造形芸術大学プロダクトデザイン学科で教鞭をとる。「手しごと職人のまち東山再発見プロジェクト」など伝統産業との産学協同を手掛ける。

社会福祉法人 菊鉢会

テnderハウス

主任 成実 憲一氏

2000年社会福祉法人菊鉢会テnderハウスに入職、主に就労支援をおこなう。またアートギャラリーの開設や、展覧会の企画を通じて、障害のある方々の表現を発信。その他、異業種と連携した製品作りにも関わる。

当日のスケジュール

- ・ 開会のごあいさつ
- ・ 1部 18:05~19:05
伝統工芸の事業所、就労支援機関、大学3つの立場からの講演
- ・ 2部 19:05~19:50
パネルディスカッション、参加者との意見交換
- ・ 今後の展開について

ミニシンポジウム参加申込書

申込期日:11月21日(月)必着

※1企業、1事業所から2名までの申込可

ふりがな

御氏名

御社・事業所名

所属

電話番号

FAX番号

メールアドレス(必須)

【申し込み方法】 参加申込書に記入のうえ、FAXでお申込みください。

FAX **075-251-2940** 京都市保健福祉局障害保健福祉推進室あて

【問合せ先】 京都市 保健福祉局 障害保健福祉推進室 就労支援担当 田中まで Tel 075-222-4161
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488